

革新的な医薬品の開発に挑む(協和
発酵キリンの高崎工場、同社提供)

未充足の医療ニーズ、焦点

メテイカルイノベーション



低侵襲・非侵襲 革新の力

オリンパスが開発した
耳鼻咽喉科向け治療システム患者へのX線皮膚入射線量をリアルタイムで確認できる
東芝メディカルシステムズのドーストラッキングシステム3次元患者モデル画像
にカラーマップで皮膚入
射線量を表示する。X

先進国における高齢化の進展や発展途上国での人口増加などにより、医療の重要性が増し続けてることは論をまたない。日本企業はアンメットメタリカルニーズ(未充足の医療ニーズ)を満たすべく、革新的な医薬品や医療機器の開発に挑んでいる。従来と同じ発想で仕事をするのではなく、社内外の知見を結集してイノベーションにつなげる姿勢も求められる。

開発余地狭まる

「医薬品のターゲットになる分子が枯渇している」。協和発酵キリンで研究開発を担当する岡崎寛執行役員はこう話す。例えばがん細胞の増殖や転移に関わる特定

といふ。

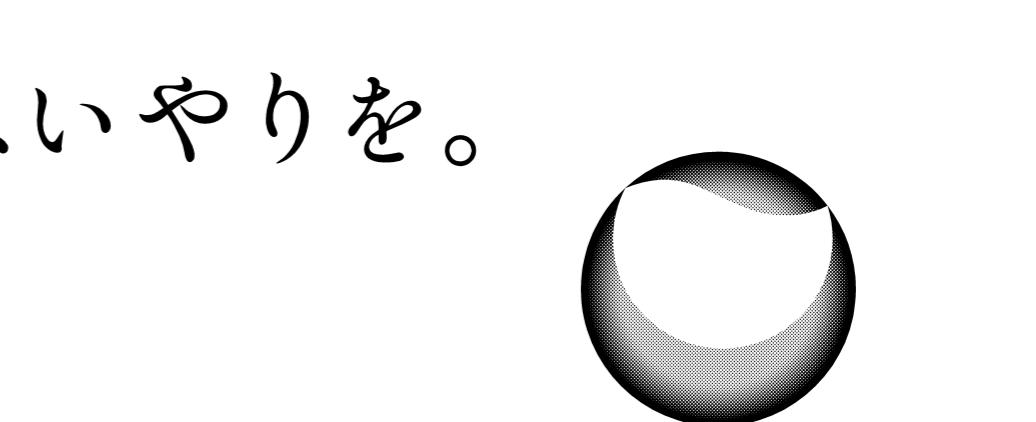
このような状況下では大学や研究機関と連携して創薬シーズを探査する「オープンイノベーション」が重要性を増す。協和発酵キリンの場合、米力アーノルニアで活動する非営利研究機関のラボや



製薬会社は部門間連携を進め、イノベーションを実現するための風土づくりを目指す(中外製薬の「ナレッジキープ」、同社提供)



製薬会社は部門間連携を進め、イノベーションを実現するための風土づくりを目指す(中外製薬の「ナレッジキープ」、同社提供)



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社

社内外で連携知見を結集

の分子を見つけて出し、その働きのみを抑制する抗がん剤をつくることができる。副作用が少なく効率的な治療につながる。だが製薬会社間の競争が進む中で新たな研究開発の余地は狭まつてしまっている。「かってほどの成果が出にくくなっている」

免疫アレルギー研究所とオーブンイノベーションの交流を通してターゲット分子の発見に努めている。ただそのためには執行役員は中核研究拠点の富士リサーチパーク(静岡県袋井町)に赴く材料を持つていなければいけない。自社にどれだけ高い創薬技術があるのかが問われる。

協和発酵キリンがこつ

れた際、「創業で世界に突出していくにはどうすればいいか」とのテーマで研究員同士で意見交換をする活動を開始する。モノづくりを現地で販売するための議論がある。岡崎対外研究拠点の富士リサーチパーク(静岡県袋井町)に赴く(同社提供)

「研究本部でつくられたものは市販品と比べると(品質などが)荒削り。臨床で使えるように

するにはモノづくりを行なう製薬本部との機能連携が重要。(小森利彦執行役員)。そのためにも社内の風通しを良くすることは欠かせない。

連携で良い効果

小森執行役員は、親会社のスイス・ロシュとの連携も良い効果を生んだと指摘する。「2002年(日本ロシュとの)連携で、自分たちが作る素として、異なる経歴や考え方を持つ人との交流が生まれた」。創業で飛躍的に上がりながらも見られていない。
「これまでに気付いたことのなかつたことにモチベーションを起すには、異分子」という。こうした観点での社内交換の積極性や柔軟性がカギを握っている。

連携で良い効果

小森執行役員は、親会社のスイス・ロシュとの連携も良い効果を生んだと指摘する。「2002年(日本ロシュとの)連携で、自分たちが作る素として、異なる経歴や考え方を持つ人との交流が生まれた」。創業で飛躍的に上がりながらも見られていない。
「これまでに気付いたことのなかつたことにモチベーションを起すには、異分子」という。こうした観点での社内交